

# 平成22年度 農村振興課組織目標の評価(平成23年3月31日現在)

項目名	目標の内容	目標値	評価	達成度	今後の対応
農村における人とひととの絆の向上	<p>共同活動の充実 技術研修会などにより共同活動の充実を図るとともに、モデル的な取り組みを推進することにより、他の組織への普及を図ります。</p> <p>施設の長寿命化</p> <p>環境保全活動の充実</p> <p>上記活動を継続的に実施するための体制整備</p> <p>これまでの取組実績の検討と合わせ、アンケート調査や聞き取り調査により中間評価をとりまとめます。</p>	<p>共同活動の充実</p> <p>チェックリストによる施設の機能診断 6組織</p> <p>魚のゆりかご水田など特色のある新たな活動に取り組む組織の拡大 6組織</p> <p>上記活動を継続的に実施するための体制整備 12組織</p> <p>中間評価のとりまとめ</p>	<p>【成果】 共同活動の充実 施設の機能診断の充実 ・チェックリストによる機能診断の体制整備 50組織以上 ・各管内「向上活動」実施説明会 6回 ・活動組織を対象とした現地研修会 2回実施(各約100名) ・市町、改良区を対象とした指導者研修会 1回(約60名) 農村環境保全活動の充実 ・H23年度実施見込み組織数 10組織 ・農村環境保全活動に伴う技術研修会 2回(各約60名) ・「魚のゆりかご水田」ワークショップの実施 12組織 ・濁水対策のための現地巡回指導 県内の1/3の組織(251組織) 上記による体制整備 60組織以上 中間評価のとりまとめ ・昨年10月に県のホームページで公表 ・第三者委員会の実施 3回 ・各管内市町聞き取り 6回 ・県政モニタリング 1回 ・代表活動組織聞き取り 2回</p> <p>【課題】 ・本年度、実施した共同活動に対する体制整備と共に、全組織がレベルアップしていくことが課題である。</p>	<p>共同活動の充実</p> <p>中間評価のとりまとめ</p>	<p>施設の長寿命化について 活動組織が実施する機能診断がチェックリストにより適正に処理されているかの確認と指導を実施していく。また、機能診断を含む施設の長寿命化対策については継続して研修会等を実施し体制整備を図っていく。</p> <p>農村環境保全活動について 「魚のゆりかご水田」を初めとした「豊かな生きものを育む水田」を拡大することとしており、今後も「まるごと保全対策」を実施する組織へアプローチを行い効果的な取り組みが増加するように推進していく。</p> <p>体制整備構想について 各活動組織の共同活動のレベルアップを図ると共に、全組織の体制整備構想を策定する。</p> <p>次期対策について 本年度、取りまとめた中間評価を基に本対策が一層有効な取り組みとなるよう次期対策について国に提案していく。</p>
地域ぐるみによる環境保全活動のより一層の向上	<p>魚のゆりかご水田プロジェクトの取り組みの拡充</p> <p>湖辺域の取組をさらに拡大するための可能性を検討します。</p> <p>中山間部から平野部において「豊かな生きものを育む水田」の取り組みの可能性を検討する。</p> <p>世代をつなぐまるごと保全の取り組みとの連携</p> <p>1支部で1組織を目標として実践 ・H22 実験・検証 ・H23 実施に向けての準備</p>	<p>H23 実施見込み 120ha</p> <p>中流域の取組 H22 実験・検証 1組織 (技術研修会開催)</p> <p>H23 実施に向けての準備 6組織</p>	<p>【成果】 魚のゆりかご水田プロジェクトの取り組みの拡充 ・H23年度実施見込み面積 約120ha ・実施可能量調査 1913ha ・キャラバン隊によるPR 28回 ・地域ワークショップによる地元住民との意見交換 12組織 ・新たに実施する可能性の高い組織 10組織 組織間での交流(ネットワーク) ・11月27日 生物多様性(魚のゆりかご水田)検討部会において各活動組織間での意見交換を実施 中山間部から平野部において「豊かな生きものを育む水田」の取り組みの可能性を検討 ・H22 実験・検証 1組織(多賀町敏万寺) ・中流域における取り組みの検討、準備 6組織(交流会、研修会など) ・中山間部から平野部における「豊かな生きものを育む水田プロジェクト」の実践のためのマニュアルの内容については生態系保全部会等で意見を聞いて検討中 ・先進地研修会の実施(兵庫県豊岡市 コウノトリの取り組みを視察) ・技術研修の実施(多賀町敏万寺の実験地区の紹介)</p> <p>【課題】 ・取り組みの一層の拡大と共に各取り組み組織のステップアップを図る必要がある。 ・「魚のゆりかご水田米」のブランド力がまだまだ小さい。</p>	<p>中間評価のとりまとめ</p>	<p>「魚のゆりかご水田プロジェクト」は本年度の推進ベースを維持しながら一層拡大を図っていく。また、「魚のゆりかご水田米」のブランド化を進めるための情報発信を強化していく。</p> <p>中流域については来年度、「豊かな生きものを育む水田」のマニュアルをまとめるとともに、緊急雇用対策事業の活用により調査とともにキャラバン活動を実施する予定であり、湖辺域同様推進拡大を図っていく。</p> <p>県内の各活動団体による意見交換会や研修会、フォーラムなどによってよりステップアップしていくためのネットワークを構築していく。</p>
農村における人とひととの絆の向上 ～みずすまし構想の推進～	<p>「みずすまし行動計画」の評価と課題の整理 各地域、流域ごとに策定されている「みずすまし行動計画」の実施状況を把握し、その役割を見直す</p> <p>「新たなみずすまし行動計画」の検討 みずすまし構想の推進方策にかかる課題を整理し、新たなみずすまし行動計画の策定に向けた検討を行う</p>	<p>「みずすまし行動計画」の課題整理</p>	<p>【成果】 ワーキング(担当者会議)を2回開催 ・みずすまし推進協議会の役割の見直し ・他施策(アセットマネジメント、まるごと等)、他事業との連携方策についての提案検討 ・情報共有、連絡調整等、みずすまし推進協議会の運営についての検討 水質と生態系保全について、各1回みずすまし専門部会を開催し、現在直面する課題について検討 みずすましネットワークを開催し生態系の研修会を開催する中で各種協議会との交流を促進</p> <p>【課題】 ・「みずすまし行動計画」の見直しを検討する中で、「みずすまし推進協議会」のあり方や役割が変わってきたことによる検討が必要となっている。</p>	<p>中間評価のとりまとめ</p>	<p>「みずすまし推進協議会」の評価、課題について、さらに洗い出すとともにその役割や必要性について検討していく。その上で「みずすまし行動計画」についても検討していく。</p> <p>来年度は「みずすまし推進協議会」のあり方について、他のグループとの横断的なワーキンググループを立ち上げ関連する協議会等との関わりなども含め検討していく。</p>

# 平成22年度 農村振興課組織目標の評価(平成23年3月31日現在)

項目名	目標の内容	目標値	評価	達成度	今後の対応
農村と都市との交流推進	<p>交流により活性化をめざす地域支援 地域における課題の掘り起こしや地域資源を活用した都市住民との交流により、活性化を目指す住民づくりの活動団体立ち上げを支援し、住民による活動団体を立ち上げる。</p> <p>農家民宿の開業 滞在型交流活動である農林漁業体験民宿(農家民宿)は、都市農村交流活動の中核の担い手として期待されることから、農家民宿開設への取組みを支援し、開業件数を増加させる。</p>	<p>地域への支援 ・支援地区数 H21まで：5地域 H22：8地域</p> <p>・上記のうち住民活動団体設立数 H21まで：6団体 H22：7団体</p> <p>農家民宿の開業 ・開業支援(確認書発行) H21まで：16件 H22：25件</p> <p>・開業件数 H21まで：9件 H22：16件</p>	<p>地域への支援 【成果】 ・支援地区数 8地域 H22立上げ地区 - 農村地域再生支援事業：多賀町八重練 ふるさと農村支援事業：日野町北畑、米原市上丹生</p> <p>・上記のうち住民活動団体設立数 7団体 H22立上げ団体 - 多賀町八重練</p> <p>【課題】 市町の施策との綿密な調整を図り、地域の状況に合わせた取り組み支援と、活動内容に応じた情報の提供やアドバイスを行う必要がある。</p> <p>農家民宿の開業 【成果】 ・開業支援(確認書発行) 45件 ・開業件数 34件</p> <p>【課題】 市町等、地域としての推進体制の構築や関係法令手続きの円滑化・簡素化が必要。</p>	<p>地域への支援</p> <p>農家民宿の開業</p>	<p>地域への支援 継続した地域活動の展開のために、必要な情報の発信や提供を行うとともに、活動地域間での交流と連携を進める取り組みを行う。</p> <p>農家民宿の開業 農家民宿の開業 県・市町・消防署等の関係機関との協議を一層図りながら、各農業農村振興事務所田園振興課を総合窓口として、開業希望者への相談や開業支援にあたっていく。</p>
ボランティアなどが支える棚田保全活動の推進	<p>棚田ボランティア活動に取り組む地域数を増加させる</p> <p>棚田ボランティア活動の自主運営が可能となる地域数を増加させる</p> <p>棚田保全活動に参加するボランティア数を増加させる</p>	<p>活動地域数 H21：6地域 H22：7地域</p> <p>自主運営地域数 H21：4地域 H22：5地域</p> <p>ボランティア数 H21：708人 H22：790人</p>	<p>【成果】 活動地域数 6地域 自主運営地域数 4地域 ボランティア数 513人</p> <p>【課題】 活動地域数 実施を希望する地域はあったものの、一部住民の意向にとどまり、地域全体の合意には至らなかった。地域ぐるみによる取組の経験や地域課題の共通認識を持つ地域を中心に誘導していくことが必要。 自主運営地域数 自主運営化のためには、運営のための体制整備とノウハウの蓄積が必要となる。人口が減少している地域については、中心となって組織運営できる人材を外部に求めることも必要。 ボランティア数 天候等により活動実施回数が変動することに伴い、活動参加人数も変動するが、今年度はその影響以上に参加人数が減少している。参加者が満足し、再び参加したくなるような企画の検討が必要。</p>	<p>活動地域数</p> <p>自主運営地域数</p> <p>ボランティア数</p>	<p>活動地域数 県および市町が実施する地域活性化等に関する事業に取り組んできた棚田地域(集落)に対し、ボランティアを受け入れての棚田保全活動を提案・誘導していく。</p> <p>自主運営地域数 運営ノウハウの蓄積が不足している地域にあっては、企画検討から受付、活動、振り返り、企画への反映といった一連の流れと、それぞれの段階での技術的な助言を通じ、自立へと誘導していく。 体制の整備が不十分な地域にあっては、周辺集落や地域活動の協力者等と連携した取り組みを提案・誘導していく。</p> <p>ボランティア数 参加者が満足し、また参加したいと思える活動内容となるよう、アンケートなどを通じて参加者の感想や意見を汲み上げ、企画検討の材料としていく。 その一方で、新たな参加者を確保するため、様々な機会を通じて棚田ボランティア制度の周知を図っていく。</p>
安全な県土基盤づくり(農山村基盤の整備)	<p>農地・農業用施設にかかる災害復旧技術者の養成・登録による協力支援体制を充実</p> <p>[技術者の把握、登録、養成] H21：46名 H22：新規登録9名</p>	<p>新規登録 9名</p>	<p>【成果】 新規登録 14名 (県全域 H21:46名 H22:60名)</p> <p>研修経過 災害復旧初任者研修(H22.7月実施) 受講者数 14名 災害復旧技術向上研修(H22.8月実施) 受講者数 14名 災害復旧技術向上講習(H23.2月実施) 受講者数 16名</p> <p>【課題】 登録した災害復旧技術者の技術を維持させる必要がある。</p>		<p>次年度以降も災害復旧を担当する技術者の技術の維持・向上を図るため研修、講習会を実施する。</p>